

あみの四季彩

網野町の人口(人)			
	R3.4末	R3.5末	前月比
0~14歳	1,168	1,167	-1
15~64歳	6,388	6,399	11
65歳~	4,862	4,862	0
合計	12,418	12,428	10

聖火リレーで想いをつなげ!

5月25日と26日の2日間、亀岡市にある京都府立京都スタジアムにて、東京2020オリンピック聖火リレーが行われ、1日目には網野町から、正田絢子さん、糸井ゆかりさん、稲岡錠二さんの3名が参加しました。

今回聖火ランナーの一人として参加した稲岡錠二さんは、京丹後市の寄り添い支援総合サポートセンターで自立相談支援員として働く傍ら、「ぶるーTan(ぶるーたん)実行委員会」という団体で、自閉症をはじめとした、いろいろな個性のことを知ってもらうための啓発活動「まぜこぜ@たんご」を行なっています。

稲岡さんは、「毎年4月2日に国連が定める『世界自閉症啓発デー』を多くの人に知ってほしい、自分が聖火リレーに参加することで『自閉症』について広く理解をしてもらえたら…そんな思いから応募しました。当日は、自閉症の啓発シンボルカラーである青色のシューズを履いて走りました。この聖火リレーへの参加をきっかけに少しでも自分たちの活動を知ってもらえたらと思います。」と話してくれました。



スタジアムでの稲岡さん



京丹後市から参加した聖火ランナーのみなさん
(前列中央:糸井さん、前列右:正田さん、後列右2人目:稲岡さん)

オオキンケイギク駆除 白砂青松保全委員会

5月29日から6月6日の間、掛津地区など周辺5地区でオオキンケイギクの駆除作業が行なわれました。

この駆除作業は、白砂青松保全委員会の松尾信介事務局長が発起人となり、自ら各区に呼びかけを行い、期間中は多くの住民の方が駆除作業に取り組みました。



未来を担う君たちへのメッセージ



6月1日、丹後緑風高等学校網野学舎にて講演をさせていただきました。

今回の講演では、前職の消防士時代で経験した生と死、苦しみや幸せを見てきた中で、僕が大切にしている「YOLO (you only live once) 人生一度きり」という言葉と、そこに込められた思いについてお話しました。また、地域おこし協力隊として現在行っている、Eバイクを使った観光事業や環境活動についても紹介をさせていただきました。

講演後には、生徒のみなさんからたくさんの質問をいただき、自分自身の活動を改めて見直すことのできるとても有意義な時間となりました。

僕が京丹後市に移住したきっかけである丹後の自然や食、人の温かさを、今回の講演を聞いていただいた世代のその先まで守り、育てていくためには、観光面はもとより、環境活動において同等かそれ以上の力を注ぐ必要があると考えています。

そのための手段として、環境活動のイベント化を図ったり、自然での遊びや環境教育を子どもたちが体験できるような居場所を作っていきたいと思っています。



そんな僕の思いや活動について知ってもらうことはもちろんですが、今回の講演を聞いてくれた生徒のみなさんが、好きなことを探求して行動を起こすきっかけにしてくれたらいいと思います。



文：地域おこし協力隊 八隅孝治